

としいわい

年祝い(長寿のお祝い)

年祝いを広い意味で解釈すれば幼児期から始まる人生儀礼も含まれるが、一般的には還暦からの祝いのことをいいます。

戦前までは、正月を迎えるたびに年齢を重ねて数えていく、数え年の方法で年を祝うのが習わしでした。しかし戦後からは満年齢で、つまり誕生日を迎えるたびに年を重ねていくのが一般化し、「年祝」も満年齢の誕生日に行われることが多くなったようです。

”人生50年”といわれた昔は、暦が一巡する60年は人生最後の大きな節目で、江戸時代には還暦を迎えると、第一線を退いて隠居し、家督を子に譲る風習がありました。しかし、平均寿命が延びた現在では、61歳といえば、まだまだ働き盛りでとても隠居する年齢ではありません。最近では「古希」の祝いをきっかけに、現役引退を考える人も増えているようです。

かんれき

「還暦」 61歳

陰陽五行説で、十二支と十支の組み合わせが60年で一巡することから、元へ還るという意味。

こき

「古希」 70歳 とほ

唐の詩人 杜甫の「曲江の詩」の一節、「人生七十、古来稀なり」からつけられたもの。平均寿命の短かった昔、70歳まで生きるということは稀であった。

きじゅ

「喜寿」 77歳

喜という字を草書体で書くとこれが七十七に見えることに由来する。

さんじゅ

「傘寿」 80歳

傘の略字が八十と読めることに由来する。

はんじゅ

「半寿」 81歳

半という字を分解すると 八、十、一 と読めることに由来する。

べいじゅ

「米寿」 88歳

米という字を分解すると 八、十、八 になることに由来する。鳩は食べ物をついばんでもむせないことにあやかり、鳩の頭のついた鳩杖(はとのつえ)を贈る風習もある。

そつじゅ

「卒寿」 90歳

卒の略字 卒 が九十と読めることの由来する。鳩寿」ともいわれる。これは「鳩」の字の中に「九」が含まれ、音も「キュウ」であることからといわれる。

はくじゅ

「白寿」 99歳

白の字に一を加えると百になることから、あと一歳で百歳になるという意味。